

地域こども支援ネットワーク事業
こどもの居場所アンケート
報告書

社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会

はじめに

こども食堂等のこどもの居場所活動が全国的に広がっています。しかも、この2～3年の間に加速度的にその数が増えています。

本会では平成28年から「地域こども支援団体連絡会」を開催し、主としてこどもの課題や安全などについて学習し、そのための情報提供と団体間の関係づくりをしてきました。

このたび、大阪市地域こども支援ネットワーク事業登録団体及び各区社会福祉協議会が把握している活動団体を対象に関西福祉大学 藤原慶二 准教授の協力のもとアンケート調査、インタビュー調査を実施しました。こども食堂等のこどもの居場所活動を担う人たちの本音、活動に参加するこどもたちの本音を聞いて、こども食堂等のこどもの居場所活動は今後どういう方向に進めばいいのか、また、地域福祉を推進する中核的な役割を担う社会福祉協議会はどのような関わりが必要なのかを次の4点にまとめました。

- 1 こども食堂は、市民の主体的な活動であり、その主体性を最大限尊重する。
- 2 個々の食堂は、制度で動いているのではないため、同じパターンに陥らず、それぞれのやり方があることをお互いに認め合う。
- 3 その上で、繋がりあうことが、個別の支援を大切にしながら、地域そのものを変える力になっていることを理解する。
- 4 しかし、「こどもがかわいそう」という情緒的な発想の活動には限界があり、行政、社会福祉協議会、専門機関などつながり、専門的、広域的、客観的な支援を受けることが大切である。

この報告書は私たち社会福祉協議会の職員がこどもの居場所活動に携わる活動者のみなさんと一緒に今後も推進していくための参考になることを願っています。

令和2年3月

社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会

目次

1	調査目的.....	1
2	調査概要.....	1
3	報告書の見方.....	2
4	アンケート調査結果.....	3
5	インタビュー調査結果（活動責任者対象）.....	12
6	インタビュー調査結果（子どもの居場所活動への参加している子ども対象）.....	20
7	アンケート調査、インタビュー調査を踏まえての考察.....	27
	参考.....	31

1 調査目的

近年、こども食堂を中心としてこどもの居場所づくりが各地域で積極的に取り組まれている。このような活動の重要性が認められる一方、活動団体が抱える課題も明らかになりつつある。そこで、大阪地域こども支援ネットワーク事業に登録している団体及び大阪市内各区社会福祉協議会が把握している活動団体を対象に、活動を通じて感じる課題などを把握することを目的とする。

2 調査概要

■アンケート票の作成・集計・分析は関西福祉大学 藤原慶二 准教授 に業務委託

(1)アンケート調査

■調査対象：大阪市内で「こどもの居場所活動」に取り組んでいる団体

■調査期間：令和元年8月6日～令和元年10月30日

■調査方法：郵送による配付回収

■回収状況（配付数）：159件（【内訳】登録団体：112団体、未登録団体：47団体）

■有効回収数：102件（有効回答率：64.2%）

■アンケート調査票：農林水産省が2017年（平成29年）に実施した「子供食堂向けアンケート調査」の調査項目を参考に作成

(2)活動責任者へのインタビュー調査

■調査対象：大阪市内で「こどもの居場所活動」に取り組んでいる29団体の責任者

■調査期間：令和元年9月17日～令和元年10月30日

■調査方法：構造化したインタビュー調査票を用いた個別及び集合による聞き取り

■聞き取り：桃山学院大学・桃山学院大学大学院卒業生チーム

(3)こどもへのインタビュー調査

■調査対象：こどもの居場所に参加したこども70名

■調査期間：令和元年9月17日～令和元年10月30日

■調査方法：構造化したインタビュー調査票を用いた訪問による聞き取り

■聞き取り：桃山学院大学・桃山学院大学大学院卒業生チーム

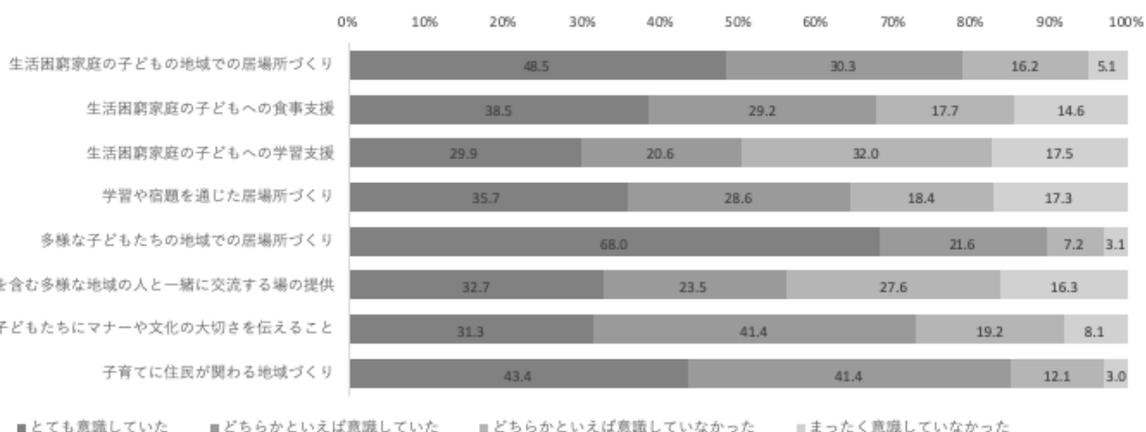
3 報告書の見方

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものである。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合がある。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映している。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示す。そのため、合計が100.0%を超える場合がある。
- 図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものがある。
- グラフ及び表のN数（number of case）、「サンプル数」は、有効標本数（集計対象者総数）を表している。
- 自由記述の集計について類似の回答内容を集計上、整理している。また、集計表で不足していると考えられる言葉は検討の上、[]内に追記している。
- クロス集計における表右下にある有意差の標記は「 $p < .05$: *、 $p < .01$: **、 $p < .001$: ***、NS : 有意差が認められない」とする。本報告書では有意差が認められない集計は除く。

4 アンケート調査結果

問1 こどもの居場所活動開始当初の主な活動目的として意識していたことは何ですか。

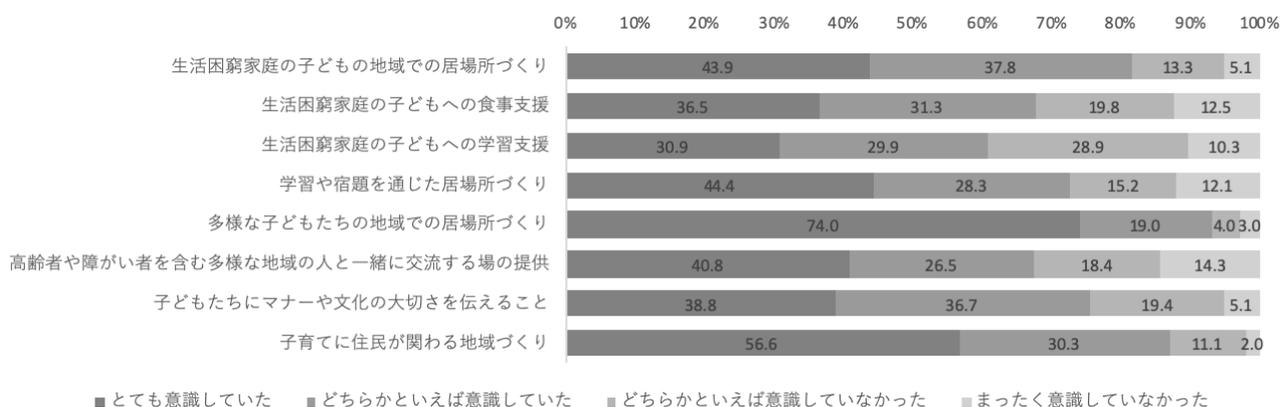
	とても意識していた	どちらかといえば意識していた	どちらかといえば意識していなかった	まったく意識していなかった	計
生活困窮家庭の子どもの地域での居場所づくり	48	30	16	5	99
%	48.5%	30.3%	16.2%	5.1%	100.0%
生活困窮家庭の子どもへの食事支援	37	28	17	14	96
%	38.5%	29.2%	17.7%	14.6%	100.0%
生活困窮家庭の子どもへの学習支援	29	20	31	17	97
%	29.9%	20.6%	32.0%	17.5%	100.0%
学習や宿題を通じた居場所づくり	35	28	18	17	98
%	35.7%	28.6%	18.4%	17.3%	100.0%
多様な子どもたちの地域での居場所づくり	66	21	7	3	97
%	68.0%	21.6%	7.2%	3.1%	100.0%
高齢者や障がい者を含む多様な地域の人と一緒に交流する場の提供	32	23	27	16	98
%	32.7%	23.5%	27.6%	16.3%	100.0%
子どもたちにマナーや文化の大切さを伝えること	31	41	19	8	99
%	31.3%	41.4%	19.2%	8.1%	100.0%
子育てに住民が関わる地域づくり	43	41	12	3	99
%	43.4%	41.4%	12.1%	3.0%	100.0%



開始当初の主な活動目的として「とても意識していた」と回答したものについて「多様な子どもたちの地域での居場所づくり」が 68.0%と最も多く、次いで「生活困窮家庭の子どもの地域での居場所づくり」の 48.5%、「子育てに住民が関わる地域づくり」の 43.4%であった。

問2 こどもの居場所活動の現在の主な活動目的として意識していることは何ですか。

	とても意識していた	どちらかといえば意識していた	どちらかといえば意識していなかった	まったく意識していなかった	計
生活困窮家庭の子どもの地域での居場所づくり	43	37	13	5	98
	43.9%	37.8%	13.3%	5.1%	100.0%
生活困窮家庭の子どもへの食事支援	35	30	19	12	96
	36.5%	31.3%	19.8%	12.5%	100.0%
生活困窮家庭の子どもへの学習支援	30	29	28	10	97
	30.9%	29.9%	28.9%	10.3%	100.0%
学習や宿題を通じた居場所づくり	44	28	15	12	99
	44.4%	28.3%	15.2%	12.1%	100.0%
多様な子どもたちの地域での居場所づくり	74	19	4	3	100
	74.0%	19.0%	4.0%	3.0%	100.0%
高齢者や障がい者を含む多様な地域の人と一緒に交流する場の提供	40	26	18	14	98
	40.8%	26.5%	18.4%	14.3%	100.0%
子どもたちにマナーや文化の大切さを伝えること	38	36	19	5	98
	38.8%	36.7%	19.4%	5.1%	100.0%
子育てに住民が関わる地域づくり	56	30	11	2	99
	56.6%	30.3%	11.1%	2.0%	100.0%



現在の主な活動目的として「とても意識していた」と回答したものについては「多様な子どもたちの地域での居場所づくり」が74.0%と最も多く、次いで「子育てに住民が関わる地域づくり」の56.6%、「学習や宿題を通じた居場所づくり」の44.4%であった。

なお、このことは活動当初の意識（問1）より6ポイントも増加している。反対に、生活困窮という点では意識は減少している。「子育てに住民が関わる地域づくり」が13.2ポイントも増加し、新しい地域づくりの必要を意識した人が多くなってきていると考えられる。こどもの居場所活動を通して地域の課題に気づいていたのではないだろうか。

問3 こどもの居場所活動を今後、どのように展開していこうと考えていますか（自由記述）。

回答内容	人数
食事以外の支援(学習など)	12
[こどもに限らず] 地域のみみんなも一緒に	9
こども達の安心できる場所にしたい	9
現状維持	9
[小学校区や] 通学路以外のこどもも一緒に	7
催しの開催	6
多世代交流	6
場所の確保	4
スタッフ育成	4
地域との関係づくり	4
施設の卒業生とボランティア活動をしたい	3
こども自主活動を強化	3
PR活動	3
小・中学校との連携	3
時間枠を広げたい	2
開催頻度を増やす	2
ボランティア拡大	2
入浴に特化	2
未定(地域の人と考えていく予定)	1
地域へのイベント(防災訓練など) [に参加]	1
大人のつながりを強化	1
学童保育所への拡大	1
(虐待ゼロを目標に) 兄弟間、友人間のコミュニケーション作りを強化	1
(虐待ゼロを目標に) 両親へのアプローチ	1
出前講座	1
家族ぐるみでフォローしたい	1
資金の確保	1
その他(施設の方針)	6

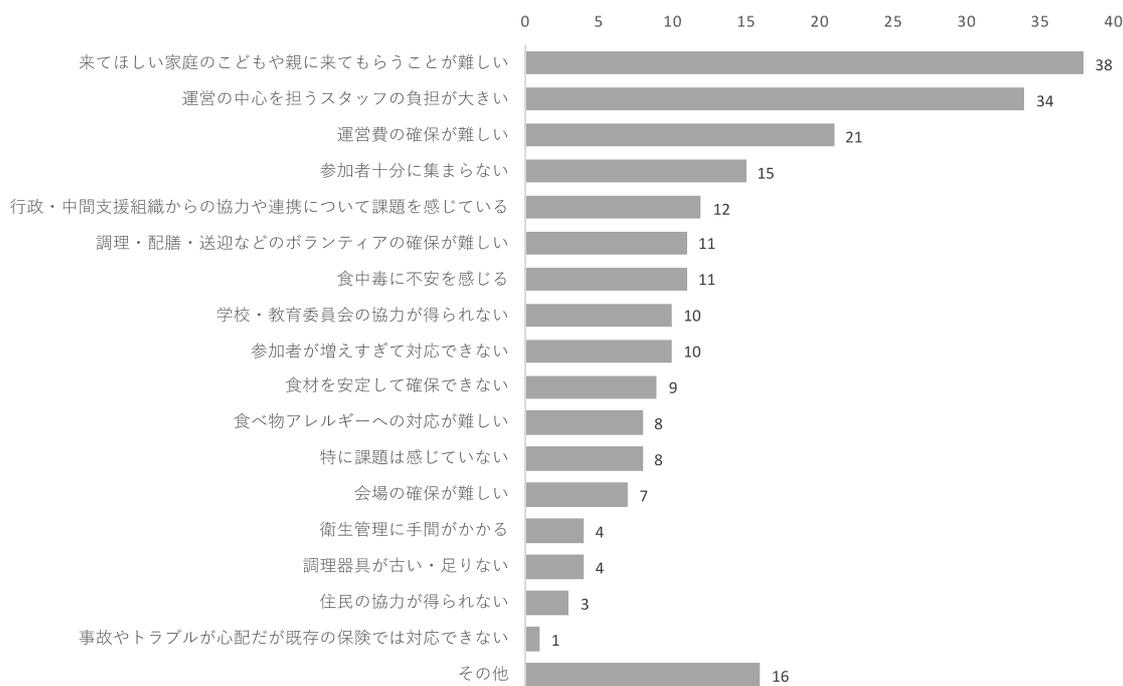
こどもの居場所活動の今後の展開について最も多かったのは「食事以外の支援（学習など）」が12名で、次いで、「[こどもに限らず] 地域のみみんなも一緒に」、「こどもたちの安心できる場所にしたい」がそれぞれ9名、「[小学校区や] 通学路以外のこどもも一緒に」の7名であった。

今後の展開については全回答者中2/3しか回答していない。「現状維持」も含め、現状の活動を維持することで精一杯なのかもしれない。今後の展開について展望が持ちにくい状況と言えるかもしれない。

問4 現在、運営にあたり感じている課題は何か（複数回答（3つまで））。

n=95

選択No.	選択内容	人数	%
1	運営の中心を担うスタッフの負担が大きい	34	35.8
2	調理・配膳・送迎などのボランティアの確保が難しい	11	11.6
3	会場の確保が難しい	7	7.4
4	食材を安定して確保できない	9	9.5
5	食中毒に不安を感じる	11	11.6
6	衛生管理に手間がかかる	4	4.2
7	食べ物アレルギーへの対応が難しい	8	8.5
8	調理器具が古い・足りない	4	4.2
9	運営費の確保が難しい	21	22.1
10	住民の協力が得られない	3	3.2
11	学校・教育委員会の協力が得られない	10	10.5
12	行政・中間支援組織からの協力や連携について課題を感じている	12	12.6
13	参加者十分に集まらない	15	15.8
14	参加者が増えすぎて対応できない	10	10.5
15	来てほしい家庭の子どもや親に来てもらうことが難しい	38	40.0
16	事故やトラブルが心配だが既存の保険では対応できない	1	1.1
17	その他	16	16.8
18	特に課題は感じていない	8	8.4



現在、運営にあたり感じている課題については「来てほしい家庭の子どもや親に来てもらうことが難しい」が38名(40.0%)で最も多く、次いで「運営の中心を担うスタッフの負担が大きい」の34名(35.8%)、「運営費の確保が難しい」の21名(22.1%)であった。

なお、運営の中心を担うスタッフの負担が大きい具体的理由として「スタッフの負担が大きい」が6名と最も多く、次いで「スタッフの多くが非正規雇用で働いている」が2名となっている。他にも「お金」、「朝が早くて学生が参加しにくい」、「調理」、「大学生講師の確保」、「ボランティアの高齢化」、「地域の方

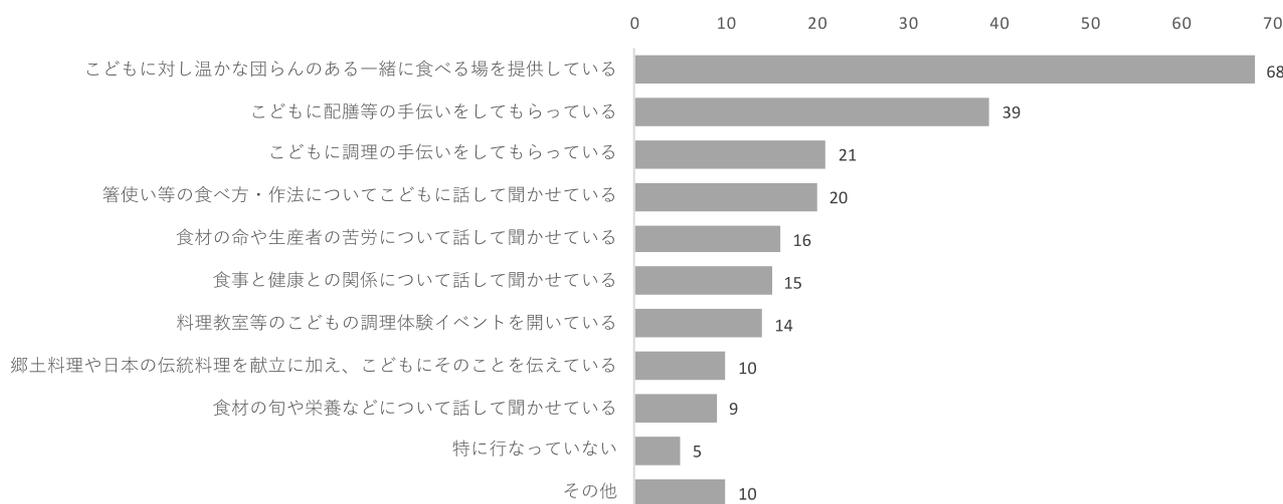
中心での活動」、「参加する人が一緒」、「ワークライフバランスが崩れかねない」がそれぞれ 1 名であった。なお、18 名が未記入であった。

「その他」の回答として「ボランティアスタッフの確保」が 5 名と最も多く、「参加する子どもの保険が難しい」、「会場が狭い（集合住宅）」、「行政との連携」、「元気すぎるこども」、「飛び込み参加」、「こどもが高年齢になった後の継続的な関わり」、「ボランティアスタッフは確保できるが、中心になって運営してくれるスタッフを確保したい」、「告知ができていない」、「工作課題に苦勞する」、「個人サークルのため活動に限界がある」がそれぞれ 1 名であった。なお、1 名が未記入であった。

問5 【こどもに食事を提供している団体のみ回答してください】こども食堂において、食事の提供以外に、こどもの食に関する体験活動や食に関する知識を深めることにつながる取り組みは何か(複数回答)。

n=73

選択No.	選択内容	人数	%
1	こどもに対し温かな団らんのある一緒に食べる場を提供している	68	93.2
2	こどもに配膳等の手伝いをしてもらっている	39	53.4
3	こどもに調理の手伝いをしてもらっている	21	28.8
4	食材の旬や栄養などについて話して聞かせている	9	12.3
5	箸使い等の食べ方・作法についてこどもに話して聞かせている	20	27.4
6	食事と健康との関係について話して聞かせている	15	20.5
7	食材の命や生産者の苦勞について話して聞かせている	16	21.9
8	郷土料理や日本の伝統料理を献立に加え、こどもにそのことを伝えている	10	13.7
9	料理教室等のこどもの調理体験イベントを開いている	14	19.2
10	その他	10	13.7
11	特に行っていない	5	6.8



こども食堂において、食事の提供以外に、こどもの食に関する体験活動や食に関する知識を深めることにつながる取り組みについて「こどもに対して温かな団らんのある一緒に食べる場を提供している」が68名(93.2%)と最も多く、次いで「こどもに配膳等の手伝いをしてもらっている」の39名(53.4%)、「こどもに調理の手伝いをしてもらっている」の21名(28.8%)であった。

なお、「その他」の回答として「自分のご飯を自分で作れるように指導する」、「常にいただきます、ごちそうさまを言う」がそれぞれ2名ずつ、「作っている人に感謝の気持ちを伝える」、「ご飯を作る大変さを伝える」、「朝ごはんを食べることを当たり前と思って欲しい」、「季節を意識してメニューを考える」、「多文化や食」、「手作り料理の提供」、「ふれあいの場として提供している」、「食後時間にももの作りを提供している」、「近くのストアで買った物を提供(食中毒が怖い)」がそれぞれ1名であった。

「食」が生活の大きな課題で貧困や虐待とまでいかないが「孤食」の多さとそれへの対応が必要だろう。

問6 こどもの居場所活動の運営において必要な物品等について（自由回答）。

衛生用品		文具		食品		その他	
回答内容	人数	回答内容	人数	回答内容	人数	回答内容	人数
アルコール	16	おりがみ	7	米	14	ホワイトボード	3
ペーパータオル	8	マジックペン	7	飲料	11	おもちゃ	3
ウェットティッシュ	8	ノート	6	お菓子	8	絵本	3
キッチンペーパー	5	画用紙	5	野菜	7	ボードゲーム	3
手洗いソープ	4	鉛筆	4	肉	6	キッチンペーパー	2
ビニール手袋	4	紙	4	飲料（ルー、ソース）	6	物件（改装費）	2
手袋	3	色鉛筆	4	果物	4	紙コップ	2
マスク	3	消しゴム	3	缶詰	4	食器用洗剤	2
食器用洗剤	3	はさみ	3	調味料	4	家賃	1
ティッシュペーパー	3	シャープペン	2	レトルト	3	備品	1
洗剤・漂白剤	3	のり	2	冷凍食品	3	ブルーレイプレイヤー	1
除菌シート	3	セロテープ	2	生鮮食品	2	拡声機、マイク	1
ゴミ袋	2	文房具	2	魚	2	風船	1
ビニール袋	2	絵の具	2	たまご	2	ホットプレート	1
除菌スプレー	2	クレヨン	2	保存食	2	パズル	1
ノロスター	1	塗り絵	2	その他	2	湯煎ジャー	1
キッチンタオル	1	クレパス	2	デザート	1	雑巾	1
ジップロック	1	教材	1	小麦粉	1	パソコン	1
ラップ	1	チョーク	1	ホットケーキミックス	1	おりがみ	1
雑巾	1	ドリル	1			プリンター	1
トイレ用洗剤	1	ねんど	1			トランプ	1
布巾用洗剤	1	ファイル	1			学習本	1
ハンドペーパー	1	ボンド	1			読書本	1
エプロン	1	タブレット	1			イベント用物資	1
ハイター	1	クラフト道具	1			食器消毒保管庫	1
トイレレットペーパー	1					フロアマット（カーペット）	1
下着	1					トイレレットペーパー	1
くつ下	1					ティッシュ	1
台拭き	1					工作道具	1
						おはし	1
						タオル	1
						ラップ	1
						ゴミ袋	1

まさに多様な物品への期待がある。特に、こどもが主体に参加できる場としての物品（遊びに必要なもの）が求められている。このような必要物品に対して市民が寄附としての活動に参加することも期待できるのではないだろうか。

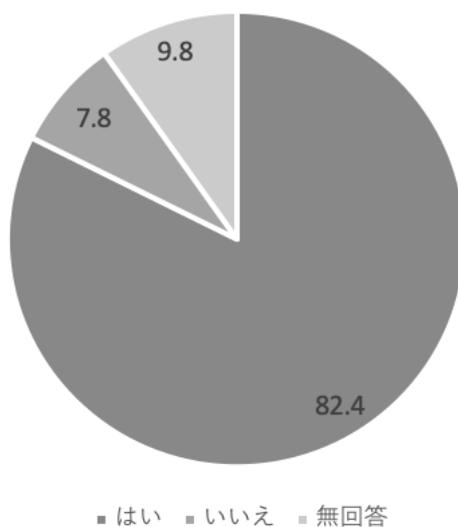
問7 こども食堂の運営において日頃感じているジレンマ等について（自由記述）。

回答内容	人数
来てほしい子や親に向けたアプローチ	10
居場所確保（無償）	7
スタッフ不足	7
行政との連携の仕方	6
PR活動	5
学校との意思疎通	5
助成金の確保	3
多世代交流	3
主催側に余裕がない	3
情報共有が充分にできない（個人情報の壁）	3
地域交流	3
開催頻度を増やす	3
世代に合わせた対応	3
子ども居場所作り支援	2
家賃確保	2
低学力の子どもへのケア	2
食数が読めない	2
学習支援	2
季節行事を多く取り入れる	2
どのようにスタッフの交代するか	1
学生スタッフの負担を心配（実習、試験前）	1
高齢者への支援がない	1
子どもの遊び、学びが足りない	1
不登校の子への解決案がない	1
車の運転者がいない	1
地域のボランティアを組合していくこと	1
保護者へのサポート	1
役割やルール作りを再確認	1
男女間での関係性による参加者のムラ	1
施設卒業生との繋がり	1
悩みを打ち解けあえる環境作り	1
学生の協力	1

こども食堂の運営において日頃感じているジレンマについては「来てほしい子や親に向けたアプローチ」が10名と最も多く、次いで、「居場所確保（無償）」と「スタッフ不足」がそれぞれ7名、「行政との連携の仕方」の6名であった。このような多様な課題にどう対応するのかは検討しなければならない。

問8 今後、本調査に基づいてインタビュー調査を予定しています。その際、インタビュー調査にご協力いただけますか。

	人数	%
はい	84	82.4
いいえ	8	7.8
無回答	10	9.8
合計	102	100.0



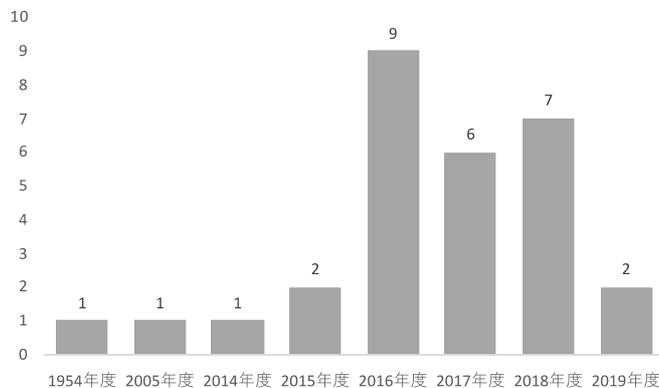
今後、本調査のインタビュー調査への協力について「はい」が84名(82.4%)で、「いいえ」が8名(7.8%)であった。インタビュー調査に対しては概ね好意的に受け止められていることがわかる。

5 インタビュー調査結果（活動責任者対象）

1. こども食堂を始めたきっかけは何ですか

(1) それはいつ頃ですか

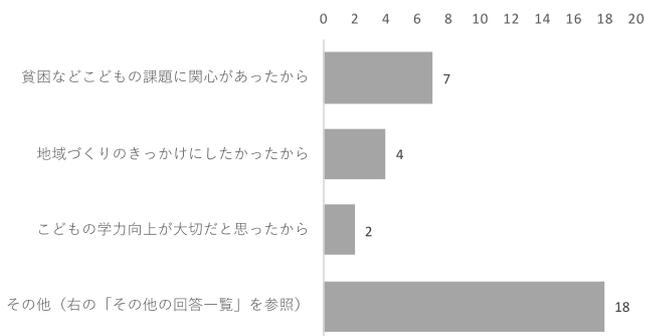
	団体数	%
1954年度	1	3.4%
2005年度	1	3.4%
2014年度	1	3.4%
2015年度	2	6.9%
2016年度	9	31.0%
2017年度	6	20.7%
2018年度	7	24.1%
2019年度	2	6.9%
合計	29	100.0%



2016年度を機にこども食堂を始めた団体が増えていることがわかる。

(2) きっかけは何ですか

	人数	%
貧困などこどもの課題に関心があったから	7	24.1%
地域づくりのきっかけにしたかったから	4	13.8%
こどもの学力向上が大切だと思ったから	2	6.9%
その他（右の「その他の回答一覧」を参照）	18	62.1%



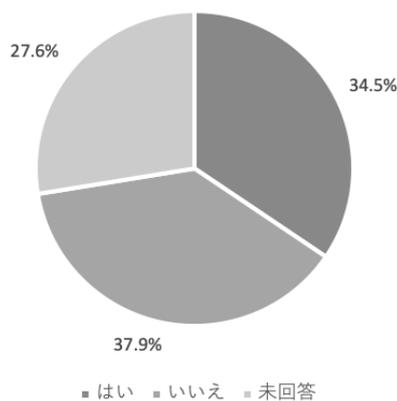
■【その他】の回答一覧

医療生協としてやりたい	2
満足した食事がとれてない	2
こどもの遊び場	2
こどもに何かしてあげたい	2
学校の授業崩壊の改善	1
協会のビジョン	1
子育てを楽しんでほしい	1
長年続いた活動をなくしたくない	1
母子家庭の事業部からの発展	1
孤食の防止	1
海外のこども食堂支援	1
幼老共生の場作り目的	1
区役所からの依頼	1
勉強、生活指導目的	1

2. こどもたちの様子（悩みや家庭のこと）はどれくらい把握していますか

(1) こどもと個別に話をする機会がありますか

	人数	%
はい	10	34.5%
いいえ	11	37.9%
未回答	8	27.6%
合計	29	100.0%

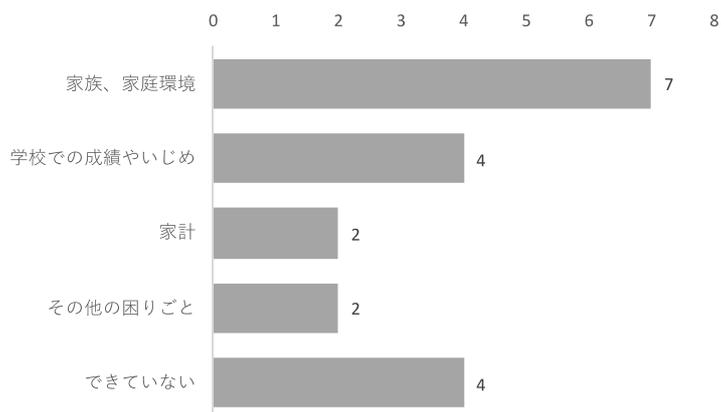


こどもと個別に話をする機会の有無については「ある（はい）」が10名（34.5%）、「ない（いいえ）」が11名（37.9%）であった。機会の有無がほぼ同数の結果となっている。この背景には、こどもの居場所活動を展開する上でスタッフとして運営を担うことが多い。そのため、参加しているこどもと個別に話をする時間が設けられないことが推測できる。

(2)把握している内容は何か

n=10

	人数	%
家族、家庭環境	7	70.0%
学校での成績やいじめ	4	40.0%
家計	2	20.0%
その他の困りごと	2	20.0%
できていない	4	40.0%

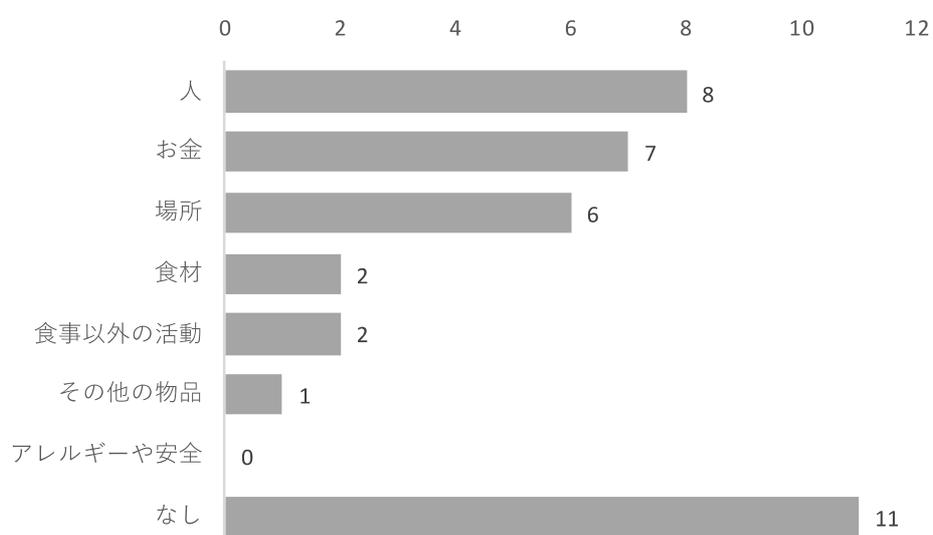


「その他の困りごと」については「子どもと親の食事中の会話がなない」、「悩みを抱えている子が来ることができない」がそれぞれ1名であった。

3. 運営上困っていることはありますか

n=29

	人数	%
人	8	27.6%
お金	7	24.1%
場所	6	20.7%
食材	2	6.9%
食事以外の活動	2	6.9%
その他の物品	1	3.4%
アレルギーや安全	0	0.0%
なし	11	37.9%



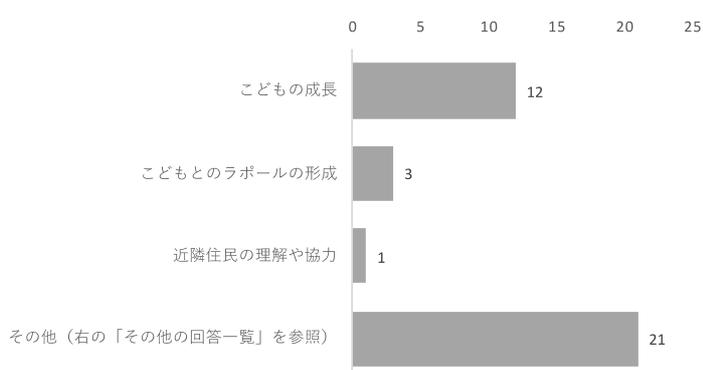
運営上困っていることについて「困っていることはない（なし）」という回答が11名（37.9%）と最も多かった。しかし、実際に困っている課題としては「人」が8名（27.6%）と最も多く、次いで「お金」が7名（24.1%）、「場所」が6名（20.7%）であった。

なお、「その他の物品」として電子レンジ、冷蔵庫などの大型備品の希望が挙げられていた。

4. こどもの居場所づくり活動をしている喜びは何ですか

n=28

	人数	%
こどもの成長	12	42.9%
こどもとのラポールの形成	3	10.7%
近隣住民の理解や協力	1	3.6%
その他（右の「その他の回答一覧」を参照）	21	75.0%



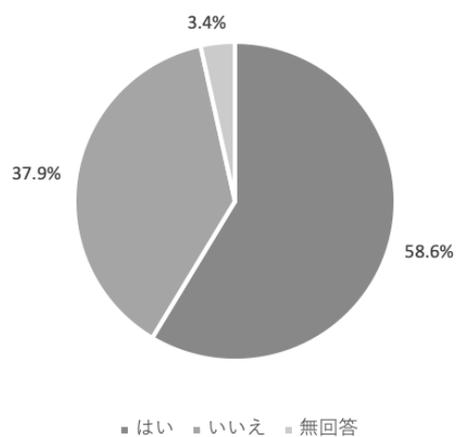
■【その他】の回答一覧

こどもが楽しそうにしている	5
情報交換	3
地域のつながり	2
食事が美味しいと言ってくれる	1
ストレス発散	1
手作りが食べられる	1
こどもの「ありがとう」	1
親にくつろいでもらえる	1
学校の先生が目を向けてくれる	1
楽しく食事ができる	1
利用者のできること増加	1
退所後のこどもの成長	1
地域で関心をもってくれるようになった	1
ほかの団体とつながれる	1

こどもの居場所づくり活動をしている喜びについて「こどもの成長」が12名（42.9%）と最も多く、次いで「その他」で回答のあった「こどもが楽しそうにしている」の5名、「こどもとのラポール形成」、「情報交換」がそれぞれ3名であった。

5. こどもが抱える課題解決にこの場所は役に立っていますか

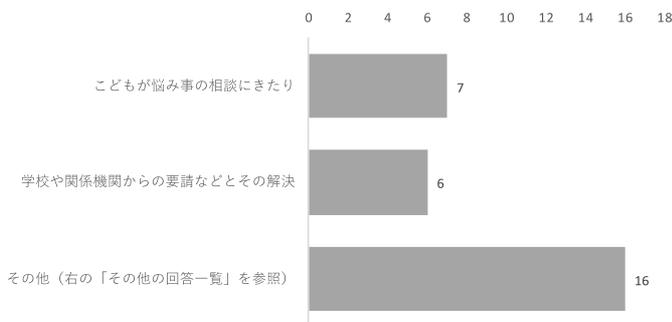
	人数	%
はい	17	58.6%
いいえ	11	37.9%
無回答	1	3.4%
合計	29	100.0%



こどもが抱える課題解決にこどもの居場所活動が役立っているかどうかについては「役立っている（はい）」が17名（58.6%）、「役立っていない（いいえ）」が11名（37.9%）であった。

6. (5.で「はい」と答えた人) 具体的にはどのようなことですか

	人数	%
子どもが悩み事の相談にきたり	7	43.8%
学校や関係機関からの要請などその解決	6	37.5%
その他 (右の「その他の回答一覧」を参照)	16	100.0%

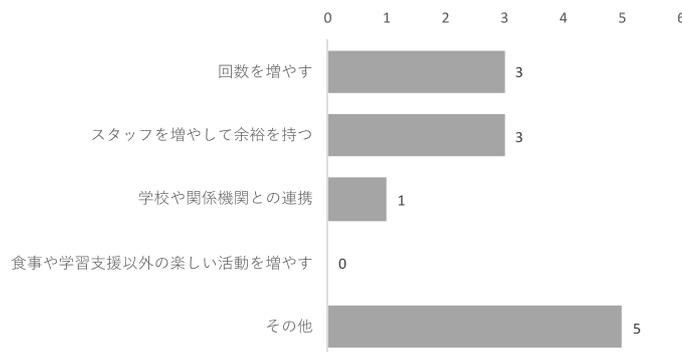


■ 【その他】の回答一覧

安心できる場になった	2
腹を満たす事	2
好き嫌いが減った	1
一人っ子は人とご飯を食べる事ができる	1
ネグレクト等を地域環境で解決できるようになった	1
何かあった時に来れる場になった	1
運営者が問題のある子を連れてくる	1
子ども同士の学習理解が深まる	1
親と子の息抜きになっている	1
不登校の子が学校へ行くようになった	1
精神障害の母が受け入れてくれる	1
子どもの人数がふえた	1
地域の関わりがふえた	1
子どもの進学の手助けができる	1

7. (5.で「いいえ」と答えた人) 役立っていないとしたらどうすればいいと思いますか

	人数	%
回数を増やす	3	27.3%
スタッフを増やして余裕を持つ	3	27.3%
学校や関係機関との連携	1	9.1%
食事や学習支援以外の楽しい活動を増やす	0	0.0%
その他	5	45.5%



「その他」の回答では「大人にも食事の提供 (有料)」、「定期的につけていく」、「地域との関わりを大切にしてい」、「地域からの認知」、「学童保育でも子ども食堂のような場所を提供」が挙げられた。

8. 今後、この活動をどのようにしたいと思っていますか

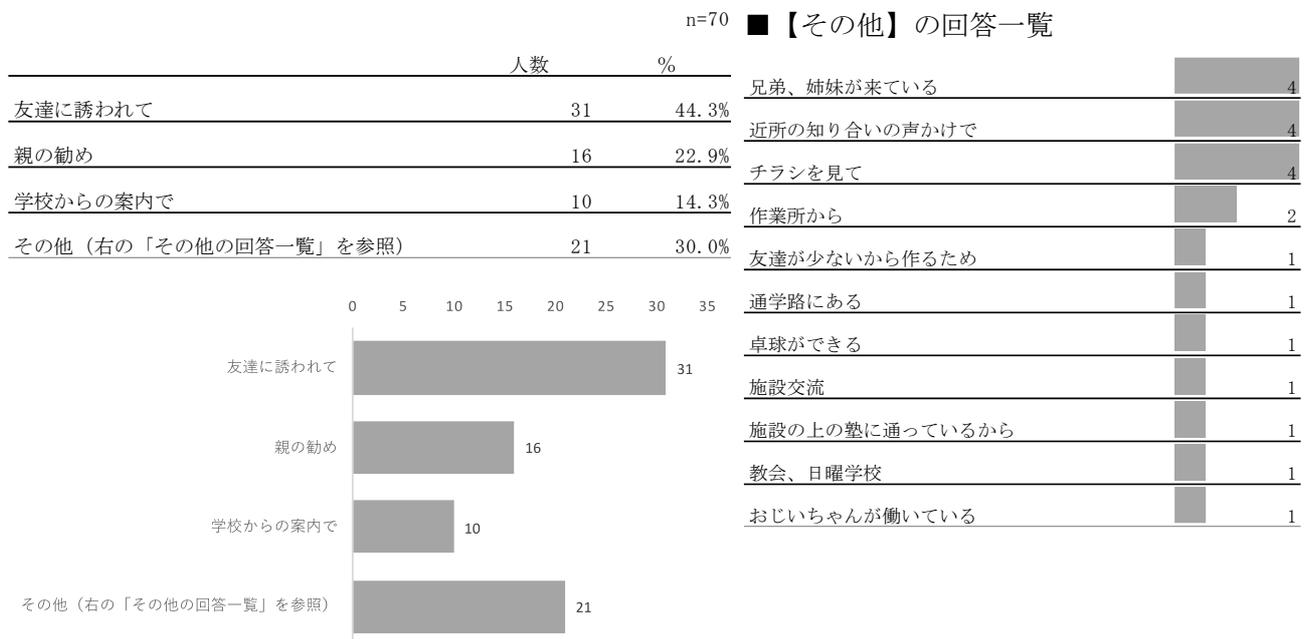
現状維持	6
地域住民に知ってもらいたい	3
学習スペースの提供	3
有償ボランティアにしっかりお金が支払える環境作り	2
[寄付や応援資金を増やたい] (支援金を増やす)	2
場所の拡大	2
動物園などに連れて行きたい	1
こどもの関わる機会を増やす	1
病院の自治会で食育をやっていききたい	1
他の施設にも同じ取り組みができるようにしたい	1
楽しく活動していく	1
受けた恩をだれかに返す子に成長する活動にしたい	1
虐待を受けている子の対応	1
軌道にのせたい	1
レギュラー20人は確保したい	1
本当に必要としているこどもを来させる	1
イメージを変えたい	1
地域との関係作り	1
施設アピール	1
四季でイベント実施	1
元児童養護施設職員の男性をメインにしたい	1
母親の居場所を確保	1
地域でこどもたちを見ていきたい	1
地域の方が自由に来れる場所に	1
参加者の今の生活をより楽しく	1
親の負担を減らす	1
回数を増やす	1
企業とのコラボ	1
朝食をしたい	1

今後の活動の展開について「現状維持」が6名と最も多く、次いで「地域住民に知ってもらいたい」、「学習スペースの確保」がそれぞれ3名、「有償ボランティアにしっかりお金が支払える環境作り」、「場所の拡大」がそれぞれ2名であった。

活動の現状を踏まえると展開をするより現状維持をすることで「活動の継続性」を重視していると考えられることもできる。

6 インタビュー調査結果（こどもの居場所活動への参加しているこども対象）

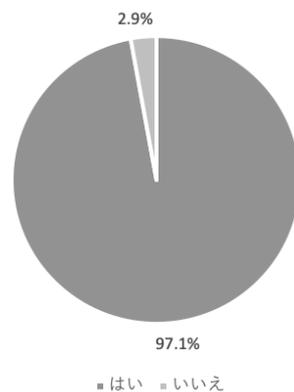
1. こども食堂に来るきっかけは



こども食堂に来るきっかけとして「友達に誘われて」が 31 名（39.7%）と最も多く、次いで「親の勧め」の 16 名（20.5%）となっている。

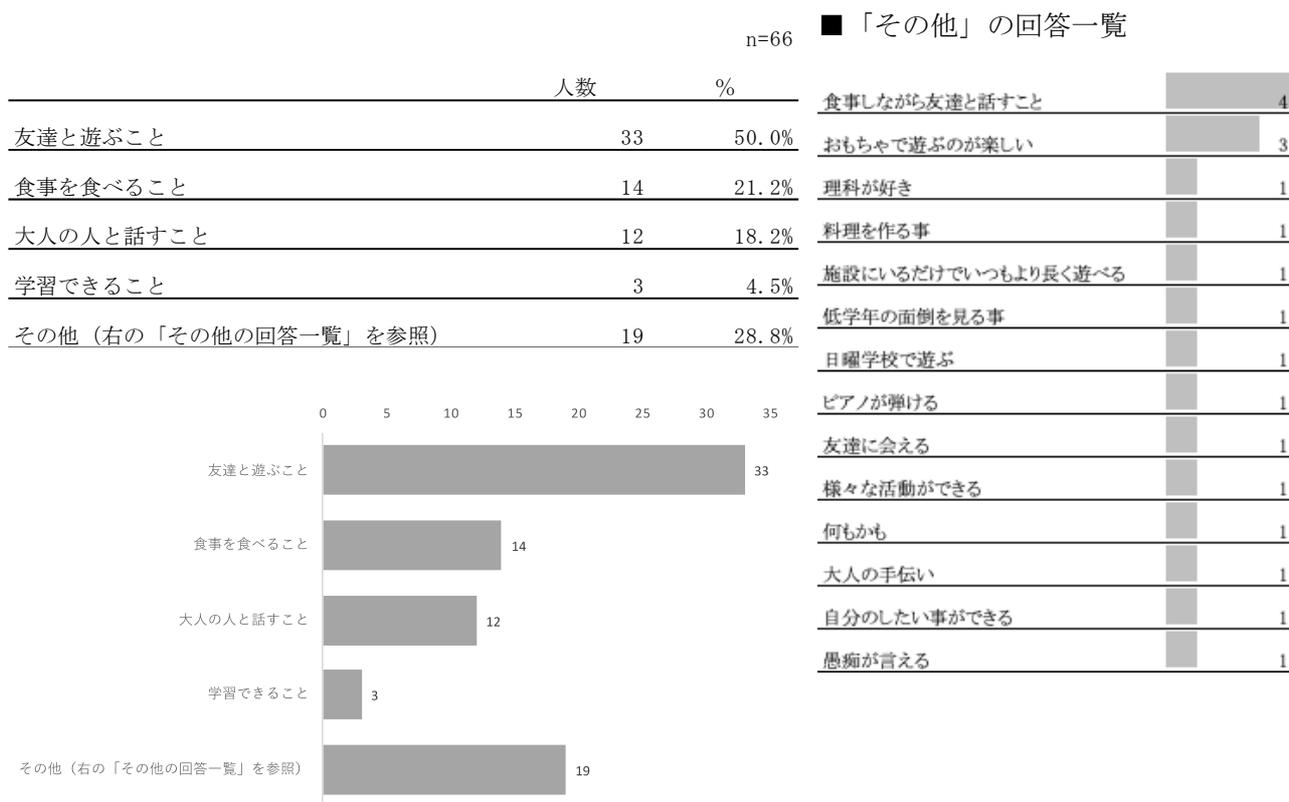
2. こども食堂は楽しいですか

	人数	%
はい	68	97.1%
いいえ	2	2.9%
合計	70	100.0%



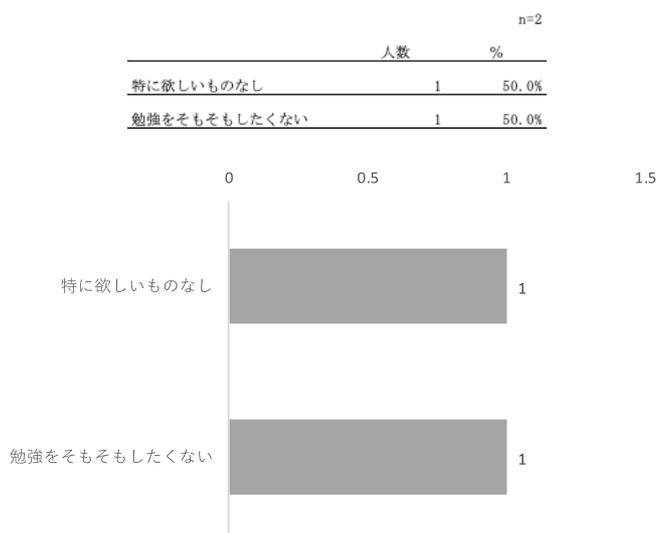
こども食堂に参加して「楽しい」が 68 名（97.1%）、「楽しくない」が 2 名（2.9%）であった。

3. (2.で「はい」と答えた人) 何が楽しいですか



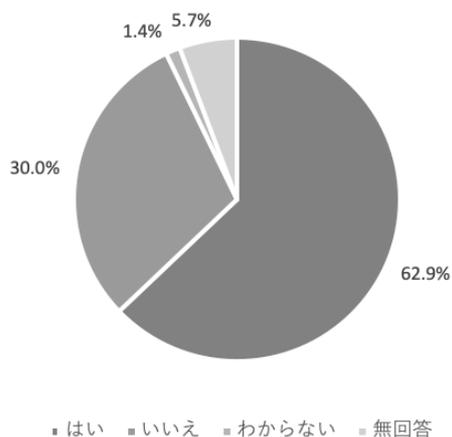
こども食堂が楽しいと回答したこどもの内容について「友達と遊ぶこと」が 33 名 (50.0%) と最も多く、次いで、「食事を食べること」の 14 名 (21.2%)、「大人のひとと話すこと」の 12 名 (18.2%) であった。なお、「その他」の項目では「食事しながら友達と話すこと」が 4 名で最も多く、次いで「おもちゃで遊ぶのが楽しい」が 3 名となっている。

4. (2.で「いいえ」と答えた人) どんなことがあれば楽しくなりそうですか



5. この居場所にあなたの気持ちを聞いてくれる人はいますか

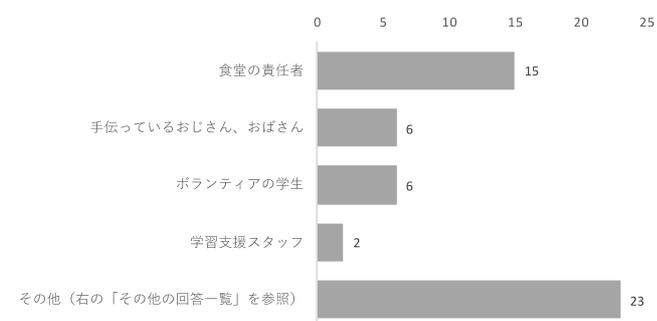
	人数	%
はい	44	62.9%
いいえ	21	30.0%
わからない	1	1.4%
無回答	4	5.7%
合計	70	100.0%



この居場所で気持ちを聞いてくれる人の有無については「いる (はい)」が44名 (62.9%)、「いない (いいえ)」が21名 (30.0%)、「わからない」が1名 (1.4%)であった。

6. (5.で「はい」と答えた人) それは誰ですか

	人数	%
食堂の責任者	15	83.3%
手伝っているおじさん、おばさん	6	33.3%
ボランティアの学生	6	33.3%
学習支援スタッフ	2	11.1%
その他 (右の「その他の回答一覧」を参照)	23	127.8%



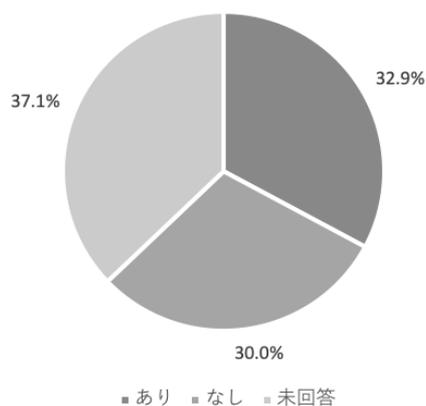
■【その他】の回答一覧

友人	20
親	2
施設にきているお兄ちゃんお姉ちゃん	1

気持ちを聞いてくれる人がいると回答した人のうち、最も多かったのが「その他」で回答した「友人」の20名で、次いで「食堂の責任者」が15名（83.3%）と多く、「手伝っているおじさん、おばさん」「ボランティアの学生」がそれぞれ6名（33.3%）であった。

7. この場所に対する希望はありますか

	人数	%
あり	23	32.9%
なし	21	30.0%
未回答	26	37.1%
合計	70	100.0%



■【あり】の回答一覧

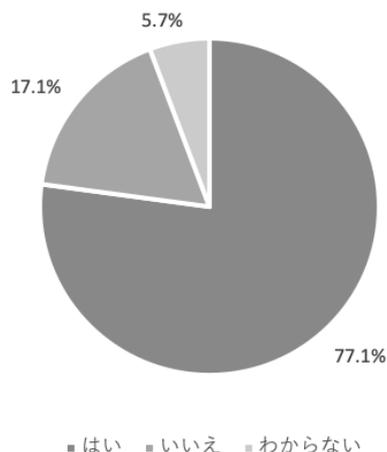
トイレが誰にでも見えるため壁が欲しい(幼児用)	3
遊び場を広くして欲しい	3
食べたい物を提供して欲しい	3
学習支援して欲しい	2
仕切りがほしい(幼児が周りで走り出すのが怖い)	2
回数を増やして欲しい	2
イベントをしてほしい	2
寝る場所がほしい	1
無償のジュース	1
卓球	1
ピアノ	1
外で遊ぶ時間が欲しい	1
屋台をしたい	1
仮装パーティーしたい	1
トランポリン	1
ご飯作りを手伝いたい	1
辞典	1
理科的な活動をして欲しい	1
手伝いをして小さ遣いがほしい	1
遊び道具を増やしてほしい	1
タブレット	1

この場所に対する希望について「あり」が23名(32.9%)、「なし」が21名(30.0%)であった。

また、希望の内容については「トイレが誰にでも見えるため壁が欲しい(幼児用)」、「遊び場を広くして欲しい」「食べたい物を提供して欲しい」がそれぞれ3名で最も多く、次いで「学習支援して欲しい」、「仕切りが欲しい(幼児が周りで走り出すのが怖い)」、「回数を増やして欲しい」、「イベントをしてほしい」がそれぞれ2名であった。

8. この場所がなくなれば困りますか

	人数	%
はい	54	77.1%
いいえ	12	17.1%
わからない	4	5.7%
合計	70	100.0%



この場所がなくなれば困るかどうかについて「困る（はい）」が54名（77.1%）、「困らない（いいえ）」が12名（17.1%）、「わからない」が4名（5.7%）であった。

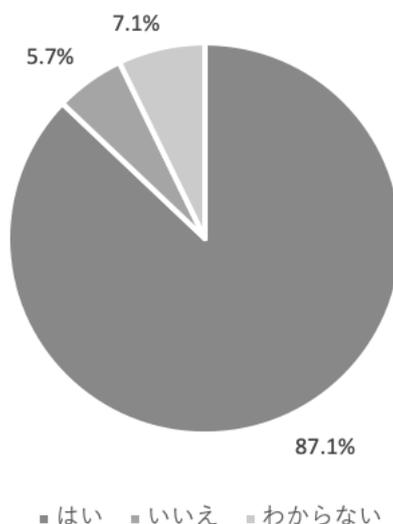
なお、場所がなくなって困る理由は「9.（8.で「はい」と答えた人）それはどうしてですか」に挙げている。

9.（8.で「はい」と答えた人）それはどうしてですか

	人数	%
遊び場が無くなる	14	29.2%
楽しみが無くなる	9	18.8%
友達に会えなくなる	8	16.7%
友達とご飯を食べる機会が無くなる	6	12.5%
勉強できる場が無くなる	4	8.3%
親が困る	3	6.3%
居場所が無くなる	3	6.3%
わからない	1	2.1%
ここではゆっくりできるから	1	2.1%
出合いが無くなる	1	2.1%
長く遊べる時間が無くなる	1	2.1%
家計が厳しく無料の食事は助かる	1	2.1%
美味しい料理が食べれなくなる	1	2.1%
ピアノを弾けなくなる	1	2.1%
勉強の質問ができなくなる	1	2.1%

10. 来年の今頃もこの場所に来ていると思いますか

	人数	%
はい	61	87.1%
いいえ	4	5.7%
わからない	5	7.1%
合計	70	100.0%



来年の今頃もこの場所に来ているかどうかについて「来ていると思う（はい）」が61名（87.1%）、「来ていないと思う（いいえ）」が4名（5.7%）、「わからない」が5名（7.1%）であった。

11. この場所について何でも希望を教えてください

施設を広く	4
回数を増やして欲しい	3
イベント実施	3
遊び道具を増やして欲しい	2
料理の数を増やして欲しい	2
ケーキを出して欲しい	2
外遊びがしたい	2
季節に合った料理	1
好きな音楽を流したい	1
無料券が欲しい	1
机の高さ、お尻に引く座布団の改善	1
滞在時間の延長	1
個室が欲しい	1
広場にブランコが欲しい	1
ボランティア学生が欲しい	1
社会人になって役立つことを学びたい	1
他言語の教室を作って欲しい	1
みんな仲良くして欲しい	1
みんなで一緒に動ける遊びがしたい	1

7 アンケート調査、インタビュー調査を踏まえての考察

アンケート調査結果を概観し、「居場所」の概念が曖昧であることから回答者の理解が共通したものになっていないのではないかと考えられ、その多様性を評している。このことを踏まえて、アンケート調査とインタビュー調査を総合的に考察する。

まず、現在の運営にあたり感じている課題（問4）として最も多かったのは「来てほしい家庭の子どもや親に来てもらうことが難しい」で38名（40.0%）であった。責任者インタビューでは、活動を始めたきっかけで「貧困など子どもの課題に関心があったから」が7名（24.1%）と多かった。しかし、実際は想定していた子どもの参加が少ないという理由により活動に対するジレンマを抱えていることがわかる。

子どもの居場所活動に対して、活動当初（問1）と現在（問2）の主な活動目的にある特徴的な変化は見られなかった。特に、「生活困窮家庭の子どもの地域での居場所づくり」については活動当初と現在において大幅な変化は見られなかった（表1参照）。

表1 活動当初の目的「生活困窮家庭の子どもの地域での居場所づくり」

×現在の活動目的「生活困窮家庭の子どもの地域での居場所づくり」

		現在の活動目的				合計	
		とても意識していた	どちらかといえば意識していた	どちらかといえば意識していなかった	まったく意識していなかった		
活動当初の目的	とても意識していた	人数	39	7	1	0	47
		%	83.0%	14.9%	2.1%	0.0%	100.0%
	どちらかといえば意識していた	人数	4	25	1	0	30
		%	13.3%	83.3%	3.3%	0.0%	100.0%
	どちらかといえば意識していなかった	人数	0	4	11	1	16
		%	0.0%	25.0%	68.8%	6.3%	100.0%
	まったく意識していなかった	人数	0	1	0	4	5
		%	0.0%	20.0%	0.0%	80.0%	100.0%
	合計	人数	43	37	13	5	98
		%	43.9%	37.8%	13.3%	5.1%	100.0%

一方、活動目的については活動当初の「生活困窮家庭の子どもの地域での居場所づくり」から現在の目的として「学習や宿題を通じた居場所づくり」へと活動目的が変化している活動団体があることも考えられる（表2参照）。

学習支援については、大阪市が全国学力テストでいつも低い成績であるため、行政も力を入れており、食事提供のように誰もが手を出しやすいからではないだろうか。

居場所づくりでは食事提供と学習支援が大きなテーマになっている。

表 2 活動当初の目的「生活困窮家庭のこどもの地域での居場所づくり」

×現在の活動目的「学習や宿題を通じた居場所づくり」

活動当初の目的「生活困窮家庭のこどもの地域での居場所づくり」×現在の活動目的「学習や宿題を通じた居場所づくり」

		現在の活動目的				合計
		とても意識していた	どちらかといえば意識していた	どちらかといえば意識していなかった	まったく意識していなかった	
とても意識していた	人数	28	12	6	1	47
	%	59.6%	25.5%	12.8%	2.1%	100.0%
どちらかといえば意識していた	人数	7	12	5	6	30
	%	23.3%	40.0%	16.7%	20.0%	100.0%
どちらかといえば意識していなかった	人数	6	3	4	3	16
	%	37.5%	18.8%	25.0%	18.8%	100.0%
まったく意識していなかった	人数	2	1	0	2	5
	%	40.0%	20.0%	0.0%	40.0%	100.0%
合計	人数	43	28	15	12	98
	%	43.9%	28.6%	15.3%	12.2%	100.0%

また、こどもの居場所活動の今後の展開については「現状維持」がアンケート調査で9名と2番目に多く、インタビュー調査では6名で最も多い回答となっている。一部重複している可能性もあるが、「現状維持」が回答として上位に挙げられている事に対して、次のように考えることができるのではないだろうか。この回答傾向の背景には、①活動を担う人材の確保が難しいための現状維持、②活動者自身の思い・考え（目的）を最優先すれば展開ではなく現状維持の選択となることが考えられる。インタビュー調査では「運営上困っていること」について「人」が8名（27.6%）となっていることから、①の背景が考えられる。しかし、同じ質問で「なし」が11名（37.9%）と最も多い回答であることから②も考えられる。

いずれにしても、今後の展開を望むのであれば、社会福祉協議会は、運営上困っていることを解決する支援が役割として考えられる。地域支援において「住民主体の原則」を考えれば社会福祉協議会側から意図的な働きかけをしつつ、活動者自身の思い・考え（目的）を重視することが大切である。

こどもの居場所として共有できる明確な目的はなく、各団体の代表者それぞれの思いを中心に活動が展開されている。「居場所」という概念そのものが曖昧なもの（誰を対象に、どのような目的で集まる場とするのかが不明確）である。そのような中でこどもの居場所活動の対象者を明確にする必要性があるのかは検討の余地がある。（対象を明確にしていなかったから居場所として成立しているが、対象を明確にすると居場所ではなくなる）

次に課題として多かったのは「運営の中心を担うスタッフの負担が大きい」の34名（35.8%）であった。運営の中心に限らず、こどもの居場所活動に参加するこどもと関わるスタッフの確保も難しいケースが見受けられる。「運営の中心を担うスタッフの負担が大きい」理由として「大学生講師の確保」が挙げられている。また、その他の意見でも「ボランティアスタッフの確保」が5名いた。

責任者インタビューにおいても活動の運営上の課題としては「人」が8名（27.6%）と最も多く、次いで「お金」が7名（24.1%）、「場所」が6名（20.7%）となっている。これらのことから活動では人材を確

保することが最優先課題として捉えられる。一方で、参加するこどもたちの安全が確保できる人である必要もある。そこで、運営に携わるボランティアの確保、育成（こどもとの関わりや遊び方を学ぶ勉強会や面接など）、調整できる仕組みを構築することが求められている。加えて、大学生が参画できる仕組みを同様に構築することが求められている。

居場所活動においてこども自身が「自分の気持ちを聞いてくれる人がいる」と回答したのが、44名（62.9%）であった。ただし、気持ちを聞いてくれる人の中で最も多い回答が「友人」の20名（87.0%）、次いで「食堂の責任者」の15名（83.3%）であった。この結果から、学校以外で友達と関わる場の一つとしても機能していることが考えられる。

これらの課題の背景にはこどもの居場所活動に参加するこどもが多くなりすぎていることも考えられる。特に課題として最も多かった「来てほしい家庭のこどもや親に来てもらうことが難しい」に対しては一定の人数が同じ空間にいないければ参加することは難しい。活動を行う上であらゆる制約がある中で、活動を展開するには会場規模に見合った参加定員など基準を設けることも考えられるのではないか。ただ、このような基準の設定を設けることで市民の自主的な活動として展開してきた特性から一定の制約の中での活動へとその性質が変化する可能性がある。

多様なこどもの居場所活動を認めつつ、一定の枠組み（定員や会場規模、衛生面など）を設けることを検討する必要があるかもしれない。

一方、参加しているこどもたちへのインタビューではこども食堂は「楽しい」と68名（97.1%）が回答している。加えて、こども食堂が楽しいと回答したこどもは「友達と遊ぶこと」が33名（50.0%）と最も多く、次いで「食事を食べること」が11名（21.2%）であった。このことからこども食堂が参加しているこどもにとっては「居場所」として機能していることがわかる。

現状としては、運営側の課題感と参加しているこどもの思いのズレが生じていることも否めない。

活動を安心して展開するためには、こどもの居場所活動に携わるスタッフでは困難な課題への対応を専門職が担う仕組みを構築することが求められる。こどもだけではなく、親が何らかの課題を抱えているケースが発見される場にもなる。また、虐待や貧困に特化したこどもの居場所に参加するこどもの募集は難しい。そこには、学校や民生委員・児童委員との連携が必須となる。ただ、現状として虐待などのこどもの大きな課題にも目が向きにくい状況であるため、「課題発見」のための「気づき」が必要となる。

その際、支援に展開できるよう専門職が関与、介入できるような体制を検討しなければならない。市民の地域活動に専門職が担うべき課題解決機能を求めるのではなく、課題発見機能に焦点化し機能分化させることも必要だろう。

このようなこどもの居場所活動に対して目的や機能を明確にするのではなく、「居場所機能」を強調することで事業を拡大していくことが良いのかもしれない。その際、現在の主たる機能として担っている「食事の提供」に加え、「遊び」や「学習」等の機能を付け加えることで居場所機能の強化が図られるのではないだろうか。ただ、上述しているように「運営スタッフの確保、育成」に関する仕組みを構築、充実させることが必要不可欠である。

参加している子どもたちは今の居場所がなくなることにに対して「困る」と回答したのが52名(77.1%)いた。その理由として「遊び場がなくなる」(14名(26.9%)、「楽しみがなくなる」(9名(17.3%))が挙げられた。こどもの居場所としての役割は参加している子どもたちに認識されていることがわかる。

と同時に、「来年の今頃もこの場所に来ていると思う」と回答したのが61名(87.1%)もいた。このような活動が今後も継続することがこどもの希望なのかもしれない。

今後、このようなこどもの居場所活動は子ども自身が参加する居場所を選択できるようになることが必要なのかもしれない。今は、一つの居場所に集中していて、多くのこどもが参加している。しかし、現状の運営側の課題を考えるとこども同士の人間関係に課題が生じた時の対応は難しい。加えて、こどもの居場所が家庭と学校が主となり、地域の中で気軽に集まれる場が少なくなっている。そこで、複数の居場所の選択肢を持つことで人間関係に関わらない居場所活動への参加に展開することが求められる。

以上のことから、社会福祉協議会には活動者自身の思い・考えを尊重した活動の展開に対する後方支援が求められるだろう。そして、このようなこどもの居場所活動に対して後方支援、支援の窓口として以下の4点にまとめることができる。

- 1 支援拠点は必要だが、あくまで活動者の多様な考えを尊重する
- 2 支援拠点については人材（ボランティア）や食材等の後方支援を意識する
- 3 気になるこどもがいた場合、専門職が適宜関わられるような支援の窓口を担う
- 4 専門職が気になるこどもがいた場合にこどもの居場所活動に紹介できる体制が必要

加えて、このような活動に学生が参画できる仕組みを構築することが求められる。学生は子どもたちと年齢が近く、身近な「お兄さん、お姉さん」的な存在となり、一人ひとりの子どもたちに寄り添うことで居場所における安心感の向上が期待できる。しかし、時間限定的な関わりとなることを前提としなければならない。このことを踏まえて、誰が、どこで、どのように関わるのかをとりまとめる拠点が必要となるだろう。

これらのことに対して専門職が配置された拠点を設置し、情報の一元化を社会福祉協議会が積極的に担っていくことも大切である。

参考

アンケート調査票

地域こども支援ネットワーク事業 居場所調査アンケートへの協力をお願い

大阪市社会福祉協議会
大阪市ボランティア市民活動センター

近年、こども食堂を中心としてこどもの居場所づくりが各地域で積極的に取り組まれています。このような活動の重要性が認められる一方、活動団体が抱える課題も明らかになりつつあります。そこで、地域こども支援ネットワーク事業に登録している団体及び区社協が把握している活動団体を対象に、活動を通じて感じる課題などを把握することを目的にアンケート調査を実施します。こどもの居場所活動を継続的、発展的に取り組めるものとして必要な支援を考える上で貴重なご意見となりますので、調査へのご協力をお願いします。

また、本調査の回答にあたっては、追加調査を行う場合があるため記名式とします。

※調査結果につきましては、ホームページ等で公表させていただく予定です。公表にあ

たっては、個人や団体が特定されないように統計処理を行います。

本調査に関するお問い合わせ先

■■■■貴団体についておたずねします■■■■■■■■■■

		貴団体の情報を記入してください
活動団体名		
活動の名称		
本調査の記入者		
開催日時		
時間帯		
活動内容		<input type="checkbox"/> 食事提供 <input type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> その他（ ）
平均 参加人数 (1回)	こども	
	大人	
	スタッフ	
主な対象範囲		
参加費		
立上げ年月		

■■■貴団体が運営しているこどもの居場所活動についておたずねします■■■■■■■

問1 こどもの居場所活動の開始当初の主な活動目的として意識していたことは何ですか。下記の各項目について、「とても意識している」から「まったく意識していない」の中から当てはまるものを1つずつ選び○をつけてください。

	とても意識していた	どちらかといえば意識していた	どちらかといえば意識していなかった	まったく意識していなかった
生活困窮家庭のこどもの地域での居場所づくり	1	2	3	4
生活困窮家庭のこどもへの食事支援	1	2	3	4
生活困窮家庭のこどもへの学習支援	1	2	3	4
学習や宿題を通じた居場所づくり	1	2	3	4
多様なこどもたちの地域での居場所づくり	1	2	3	4
高齢者や障がい者を含む多様な地域の人と一緒に交流（食事を含む）する場の提供	1	2	3	4
こどもたちにマナーや文化の大切さを伝えること	1	2	3	4
子育てに住民が関わる地域づくり	1	2	3	4

問2 こどもの居場所活動の現在の主な活動目的として意識していることは何ですか。下記の各項目について、「とても意識している」から「まったく意識していない」の中から当てはまるものを1つ選び○をつけてください。

	とても意識していた	どちらかといえば意識していた	どちらかといえば意識していなかった	まったく意識していなかった
生活困窮家庭のこどもの地域での居場所づくり	1	2	3	4
生活困窮家庭のこどもへの食事支援	1	2	3	4
生活困窮家庭のこどもへの学習支援	1	2	3	4
学習や宿題を通じた居場所づくり	1	2	3	4
多様なこどもたちの地域での居場所づくり	1	2	3	4
高齢者や障がい者を含む多様な地域の人と一緒に交流（食事を含む）する場の提供	1	2	3	4
こどもたちにマナーや文化の大切さを伝えること	1	2	3	4
子育てに住民が関わる地域づくり	1	2	3	4

問3 こどもの居場所活動を今後、どのように展開していこうと考えていますか。ご自由にご記入ください。

問4 現在、運営にあたり感じている課題として、当てはまるものを3つまで選んで○をつけてください。

1. 運営の中心を担うスタッフの負担が大きい(具体的に：)
2. 調理・配膳・送迎などのボランティアの確保が難しい
3. 会場の確保が難しい
4. 食材を安定して確保できない
5. 食中毒に不安を感じる
6. 衛生管理に手間がかかる
7. 食べ物アレルギーへの対応が難しい
8. 調理器具が古い・足りない
9. 運営費の確保が難しい
10. 住民の協力が得られない
11. 学校・教育委員会の協力が得られない
12. 行政・中間支援組織(社協など)からの協力や連携について課題を感じている
13. 参加者が十分に集まらない
14. 参加者が増えすぎて対応できない
15. 来てほしい家庭の子どもや親に来てもらうことが難しい
16. 事故やトラブルが心配だが既存の保険では対応できない
17. その他()
18. 特に課題は感じていない

問5 【子どもに食事を提供している団体のみ回答してください】貴団体が食事の提供と合わせて実施している、子どもの食に関する体験活動や食に関する知識を深める取組みとして当てはまるものすべてを選んで○をつけてください。

1. 子どもに対して温かな団らんのある一緒に食べる場を提供している
2. 子どもに配膳等の手伝いをしてもらっている
3. 子どもに調理の手伝いをしてもらっている
4. 料理教室等の子どもの調理体験イベントを開いている
5. 食材の旬や栄養などについて伝えている
6. 食事と健康との関係について伝えている
7. 食材の命や生産者の苦勞について伝えている
8. 箸使い等の食べ方・作法について子どもに伝えている
9. 郷土料理や日本の伝統料理を献立に加え、子どもにそのことを伝えている
10. その他()
11. 特に行なっていない

問6 こどもの居場所活動の運営において必要と思われる物資等があればご記入ください。

1. 衛生用品（具体的に： ）
2. 文 具（具体的に： ）
3. 食 品（具体的に： ）
4. そ の 他（具体的に： ）

問7 こどもの居場所活動において日頃感じている課題やジレンマ等があれば自由にご記入ください。

問8 今後、本調査に基づいていくつかの団体へのインタビュー調査を予定しています。依頼させていただいた場合、インタビュー調査にご協力いただけますか。

1. 協力する
2. 協力しない

質問は以上です。

ご回答いただき、ありがとうございました。

同封の返信用封筒にて●月●日（ ）までにご返送ください。

インタビュー調査

■活動責任者対象インタビュー記録用紙

こどもの居場所 インタビュー 記録用紙（運営者用）

インタビュー先 名前 記録者
2019年 月 日 時 ～ 時

1. こども食堂を始めたきっかけは何ですか	いつ頃（ ） 1. 貧困などこどもの課題に関心があったから 2. こどもの学力向上が大切だと思ったから 3. 地域づくりのきっかけにしたかったから 4.その他（ ）
2. こどもたちの様子（悩みや家庭のこと）はどれくらい把握していますか	こどもと個別に話をする機会があるか 1はい 2いいえ 家族、家計、学校での成績やいじめ、その他の困りごとなど
3. 運営上困っていることはありますか	1お金、2人、3場所、4食材、5その他の物品、 6アレルギーや安全、7食事以外の活動など
4. こどもの居場所づくり活動をしている喜びはなんですか	1こどもの成長、2こどもとのラポールの形成、 3近隣住民の理解や協力、 4その他（ ）
5. こどもの抱える課題解決にこの場所は役に立っていますか	1. はい 2. いいえ
6. 具体的にはどんなことですか 5.をはいと答えた方	1 こどもが悩みごとの相談にきたり 2 学校や関係機関からの要請などその解決 3その他()
7. 役立っていないとしたらどうすればいいと思われませんか 5.をいいえと答えた方	1. 回数を増やす 2. スタッフを増やして余裕を持つ 3. 学校や関係機関との連携 4. 食事や学習支援以外の楽しい活動を増やす 5. その他
8. 今後、この活動をどのようにしたいと思われていますか	
市社協、区社協への意見	
<こども食堂の様子>	

■こども対象インタビュー記録用紙

こどもの居場所 インタビュー 記録用紙

インタビュー先

名前

調査者

2019年 月 日 時 ~ 時

1. こども食堂に来るきっかけは	1. 親の勧め 2. 友達に誘われて 3. 学校からの案内で 4. その他（具体的に)
2. こども食堂は楽しいですか	1. はい 2. いいえ
3. はいと答えた人 何が楽しいですか	1. 食事を食べること 2. 友達と遊ぶこと 3. 大人の人と話すこと 4. 学習できること 5. その他()
4. いいえと答えた人 どんなことがあれば楽しく なりそうですか	
5. この居場所にあなたの気持ちを聞いて くれる人はいますか	1. はい 2. いいえ
6. はいと答えた人 それは誰ですか	1. 食堂の責任者 2. 手伝っているおじさん、おばさん 3. ボランティアの学生 4. 学習支援スタッフ 5. その他()
7. この場所に対する希望は ありますか	
8. この場所がなくなれば 困りますか	1. はい 2. いいえ
9. はいと答えた人 それはどうしてですか	
10. 来年の今頃もこの場所に 来ていると思いますか	1. はい 2. いいえ
11. この場所についてなんでも 希望を教えてください。	
<こども食堂の様子>	

■子どもの居場所アンケート調査作業経過一覧

日 時	内 容	場 所
令和元年7月23日(火) 17:00~19:00	<ul style="list-style-type: none"> ■ アンケート調査票の作成 ■ アンケート調査の集計作業の進め方 	日本福祉文化学会事務局
令和元年10月4日(金) 17:00~19:00	<ul style="list-style-type: none"> ■ アンケート調査の回収状況の確認 ■ インタビュー調査の実施状況の共有 ■ アンケート調査の経過報告の作成 	日本福祉文化学会事務局
令和元年11月15日(金) 18:00~20:00	<ul style="list-style-type: none"> ■ アンケート集計状況の確認 ■ 報告書作成に向けた情報共有 	日本福祉文化学会事務局
令和2年1月28日(火) 18:00~20:00	<ul style="list-style-type: none"> ■ 報告書案の確認 	大阪市ボランティア・市民活動センター
令和2年3月6日(金) 15:00~17:00	<ul style="list-style-type: none"> ■ 報告書の最終確認 	大阪市ボランティア・市民活動センター

■インタビュー調査のメンバー

石田 易司 藤原 慶二 石丸 豊 金本 拓也 信達 和典 田中 翔
 築地 佑人 中島 祐二 松井 翔平 松尾 力斗 的場 亮太